町のさまざまな話題を、カメラで追いかけます。

Photo Palette フォトパレット

皆さんの身近で起きた出来事や楽しい話題、イベントなどの情報を「広報おうら」編集部まで、お気軽にお寄せください。☎47-5007

クリスマスの調べに酔いしれて

Best Shot

12月10日、長柄公民館でクリスマスミュージックナイト★2009が行われました。親子連れなど250人が訪れ、クリスマスの調べに酔いしれました。小沼美貴さん（古家十軒・30区）は、「初めて演奏を聴きに来ました。学校で吹奏楽部に入っているので、出演者の皆さんの演奏を聴けて勉強になりました。半田美歌さんが演奏した『千の風になって』はとても感動しました」と話していました。

手打ちそばに舌鼓を打つ

12月5日、ヤングプラザで手打ちそば講座が行われました。この日の講座では、新そばの粉を使用。大澤てつ代さん（寺中・26区）は、「初めてそばを打ちました。そば生地が破れないようにするのが難しいですね。家でもぜひ、年越しそばを打ちたいです」と話してくれました。

サンタさんからプレゼント

12月11日、邑楽町公民館の子育てひろばで、クリスマス会が行われました。子どもたちは、サンタさんからプレゼントをもらいました。阿部綾子さん（明野・34区）は、「子どもたちにも友達ができるし、子育て中のママとの交流の場にもなるのでいいですね」と話していました。

きれいな明かりだね～

12月13日、高島小学校でキャンドルナイトが行われました。子どもたちは、キャンドルに点灯。幻想的なキャンドルの光を楽しみました。中野小学校４年生の田中美優子さんは、「キャンドルが、とてもきれいでした。友達と見れてよかったです」と話してくれました。

◇町の歴史　連載三百三十八回◇◇◇◇◇◇

町の年代記 第40回

細谷清吉（歴史研究家）

細谷右馬助秀国（七）～丹後府中にとどまる～

延元三年（一三三八）閏七月二日、今の新暦では八月二十四日の暑い盛りです。後醍醐天皇方の総大将新田義貞は足羽七城の総攻撃を開始しました。敵将斯波（足利）高経方の小さな城々は落ちましたが、平泉寺衆徒のこもる藤島城は日暮れ近くになっても防戦を続けていたので、新田義貞は手勢五十騎を引き連れて藤島へ向かいました。義貞方は騎馬で弓を持ちません。それに対して横合いから出て来た敵兵は徒歩で弓を持っていました。義貞の馬は五、六本の矢を受け、義貞の矢面に立った部下も射倒されました。中野藤内左衛門景春は大将に向かって「こんなに弓矢の飛びくる中を進むべきではありません」と進言しましたが、義貞は「大事な家来を失って、大将一人免れるのは、わが本意ではない」と、なおも前へ進めますが、白羽の矢に眉間を射られて、あえなく最後を遂げました。景春は結城・金持の両将と共に義貞の遺骸の前で自害しました。

義貞戦死の報に軍勢はたちまち、いずこともなく離散しました。脇屋義助・篠塚伊賀守・児島高徳などは、とどまって弔い合戦を図ります。細谷右馬助秀国は再起を図って西へ向かい、若狭湾を漁船で西岸に渡り、丹後国与謝郡府中（京都府宮津市）の辺りに身を寄せました。この地には丹後国の一ノ宮、天橋立・元伊勢、籠神社が鎮座しております。「籠神社」は神代の昔籠舟に神様が乗って来たので、この名があると言われます。神代からここに天照大神・豊受大神などが祭られており、伊勢神宮の以前の神社であったので、「元伊勢籠神社」といわれました。現在の社家である海部光彦宮司の家には、家宝として現存最古の「籠名神社祝部海部直等之氏系図」があります。

このほか、後醍醐天皇の建武年中に書かれた「丹後国一宮深秘」という元伊勢の由緒書などもあります。海部氏は南北朝時代、後醍醐天皇方として丹後地方の南朝勢力の中心でありましたから、細谷右馬助秀国は籠神社を頼ったので、その勢力下に身を寄せました。それは細谷右馬助秀国が正平二年（一三四七）に故国に帰り、邑楽郡佐貫庄篠塚の坪谷に寓居して、籠神社を祭り、泉福寺をたてて守護神としたことによっても知られます。

篠塚坪谷の籠宮稲荷奥殿の籠神社（写真左）